

音楽科学習指導案

加世田市立万世中学校

2年2組 男子17名 計32名
女子15名

指導者 教諭 上村 勉

1 題材 「旋律の流れ」

2 題材の目標

- (1) 曲想や歌詞内容に関心をもち、表現活動に意欲的に取り組み、音楽に親しもうとする態度を育てる。
- (2) 旋律の変化や表情、歌詞内容を感じ取らせ、曲想に合った表現を工夫させる。
- (3) 全体の響きに調和させて、表情豊かに表現する技能を身に付けさせる。
- (4) 速度や強弱の働き、及びそれによって生み出される曲想の変化を理解して聴き取らせる。

3 題材の評価規準

- (1) 一人一人が表現することへの意欲をもち、より発展的な歌唱表現をする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 歌詞のイメージを感じ取り、曲に合った表現の工夫をする。
(音楽的感受や表現の工夫)
- (3) 歌詞の内容を理解し、曲想を生かした表現ができる。
(表現の技能)
- (4) 速度や強弱の働きによる効果、多様な音楽の表現の特徴を聴き取ろうとしている。
(鑑賞の能力)

4 教材

「夏の思い出」 江間章子：作詞 中田喜直：作曲
「Let's search for Tomorrow」 堀 徹：作詞 大澤徹訓：作曲

5 題材について

(1) 題材設定の理由

中学生になると、歌うことに対して消極的な生徒が増えてくる傾向がみられる。決して歌うことが嫌いなのではなく、挙手をして発表することも含めて自己表現することに対する羞恥心や、男子の場合は変声期の影響によることもその理由として挙げられる。

本校の生徒もその例に漏れず、表現活動においては積極的ではなく、むしろ受身的な生徒が多いように見受けられる。しかし、表現活動を進めていく中で「分かった」、「できた」ということが少しでも感じられるようになると、活動がより充実することも事実である。

また、生徒たちはパートリーダーを中心に自主的に音取りをし、曲作りをする態勢ができています。今後は、さらに音楽への興味・関心を高め、歌唱表現の楽しさを味わわせ、それぞれの力を十分に引き出すことで、音楽的により高い学習集団に育てたいと考える。

中学2年生ともなると、心身の発達に伴い内面的な深まりを持った表現が可能になる。歌唱の場合、歌詞の情景や気持ちを想像して表現するだけでなく、歌詞の内容を深く味わい、自分なりのイメージをもち、心を表現することが大切である。そこで、旋律の変化や歌詞の内容、曲の感じから曲の気持ちをくみ取り、それを表現するための技能を身に付けながら表情豊かな歌唱(合唱)表現の工夫ができるようにさせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 教材について

「夏の思い出」(江間章子作詞、中田喜直作曲、二長調、4/4拍子、四分音符=63)は、昭和25年にNHKのラジオ歌謡として発表された曲で、最も親しまれている日本歌曲の一つである。言葉のもつリズムや抑揚が、旋律に自然に生かされていることを、表現をとおして感じ取らせることや、強弱をはじめとする様々な記号等について理解させ、表現に生かすことに適した曲である。本教材をきっかけに日本歌曲に親しむ機会にもしたい。

「Let's search for Tomorrow」(堀徹作詞、大澤徹訓作曲、八長調、4/4拍子、四分音符=84~92)は、中学校のクラス合唱用にと依頼されて作曲されたものである。校内合唱コンクールや卒業式などを意図して、クラス全体で盛り上がることのできる曲に仕上げた混声三部合唱曲である。「いつも明日に向かって進んでほしい、明日にこそ希望や真実はあるんだ、という気持ちを込めてこの曲を作りました。」という作曲者の言葉が示すように、希望に満ちあふれた歌詞は、この時期の生徒の心情にピッタリ合い、親しみやすい楽曲である。同じ旋律が数回現れるので、その前後の歌詞の意味を大切にして合唱表現が作曲者の意図に合っているか、フレーズごとに問い掛け、表現を工夫させるようにしたい。また、歌詞の言葉を明確に表現できるよう、正しい口形で歌わせることにも留意したい。

6 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく素直な生徒が多く、音楽の授業も積極的に取り組む姿が見られる。しかし、音楽に対する興味・関心が高いとは言い難い。それは、基本的な演奏技術の習得を苦手としており、そのため活動がスムーズにまた能率的に展開できないためである。

そこで、パートリーダーを中心とした自主的な活動を取り入れ、ミュージックデータプレイヤーを活用することにより、授業に対して能動的・積極的に取り組む姿勢が培われ、音楽に対する興味・関心も高まるものと考えた。

学習に取り組むに当たって、生徒たちの音楽学習に対する実態の一面を知るために、次のようなアンケートを実施した。(平成16年6月14日、男子16名 女子12名 計28名実施)

1 歌唱・合唱の活動は好きですか。

右グラフ参照

2 1で答えた理由を簡単に述べてください。

はい...皆で声を合わせて歌うから(5名)

ストレス解消, 気持ちがいい(3名)

パートに分かれてみんなで合わせると

微妙にハモっているのが好き(2名)

輪唱の練習が好きだった。

とても楽しい。歌詞の内容や声の強さを考えて歌うのも楽しい。

歌を歌うと楽しくなり, 悲しかったことも忘れてしまうから。

みんなで合わせたとき, よいハーモニーになるとうれしくなる。

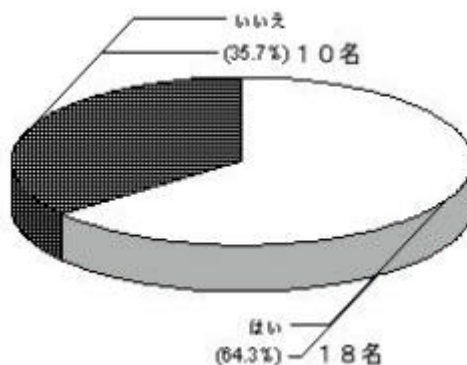
合唱はみんなでハモるのが好き。美しいメロディを声で作るのが楽しい。

自分が初めて聴く歌などをみんなで声を合わせて歌うのが好き。

いいえ...周りより音はずれているので恥ずかしい。(8名)

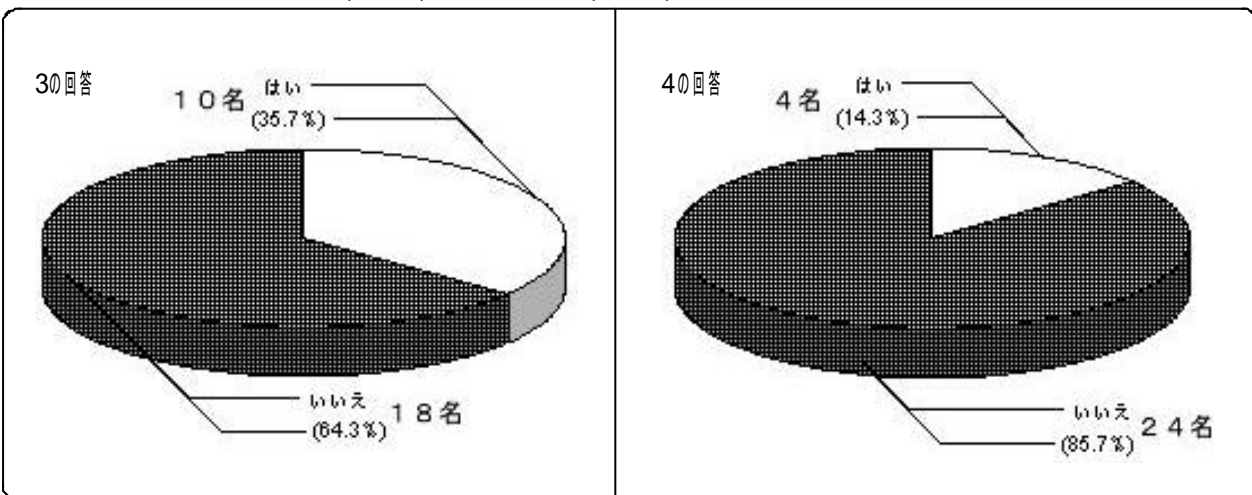
好きでない。興味がない。(2名) 声を思いきり出すのが嫌いだから。

のどが痛くなる。大きい声が出ない。ふざけている人がいる。上手でない。



3 歌を歌うときに歌詞の内容をイメージしたり, 内容を感じ取りながら活動していますか。.....はい(10名) いいえ(18名)

4 楽譜に記入されている記号の意味を理解し, 演奏記号を生かしながら歌っていますか。.....はい(4名) いいえ(24名)



5 「日本歌曲」について, 知っていたら曲名をあげてください。

はい(18名): 海, チューリップ, 花の街, 早春賦, 浜辺の歌, この道, 夕やけ小やけ, 花, 赤とんぼ, 荒城の月, 箱根八里, 四季の歌, ふるさと

いいえ(10名)

〔考 察〕

以上のアンケート結果から、35.7%の生徒が歌唱や合唱活動に苦手意識をもっていることが分かる。これはその理由を見ても分かるように、なかなか音が取れないことや発声ができないという技術的側面による原因がほとんどである。また、歌を歌う時に歌詞の内容をイメージしたり、記号の意味を理解して学習に取り組んでいるという生徒が意外と少ない。

生徒たちは、これまでの学習で、「思いを膨らませる楽譜へのメモ」、「自分の思いや考えを膨らませるノート」を活用しながら歌唱や合唱活動に取り組んできた。これまでの取組により、生徒の内面的な変容が随所に見受けられる。今後は、技能的な変容がより充実し、生徒自身がさらに成就感を味わえるような授業を展開していきたい。

3 指 導 計 画

(1) 指導計画（全3時間・本時3 / 3）

時 間		1 時 間	2 時 間	3 時 間(本時)
教 材	・ Let's search for Tomorrow			
	・ 夏の思い出			
学 習 内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Let's search for Tomorrow」の範唱を聴いて曲を把握する。 ・ パート練習をし、混声三部合唱ができるようになる。 ・ 姿勢、発声に気を付けて歌えるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Let'ssing(p.12)を活用し「夏の思い出」の歌詞を繰り返し黙読し、イメージを広げる。 ・ 旋律の流れや抑揚、アクセント、リズムを生かした表現の工夫をする。 ・ 曲中記号の意味を理解し表現に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の変化や表情を生かしながら「夏の思い出」を二部合唱する。 ・ 中田喜直作曲の作品を鑑賞し日本歌曲への関心を深め親しみをもつ。 ・ 歌詞と旋律のかかわりを感じ取り、記号を生かしながら表現する。
評 価		規準(1)(4)	規準(1)(2)(3)	規準(1)(2)(3)(4)

(2) 指導にあたって

- ア 日本歌曲に興味・関心をもち、意欲的に活動させたい。
- イ 詩を繰り返し朗読し、作詞・作曲者のメッセージや曲が表す情景をイメージさせたい。
- ウ 曲中に出てくる、さまざまな記号の意味を理解し、表現の工夫に生かしたい。
- エ 旋律の流れや言葉の抑揚やアクセント、リズムなどを生かした表現をさせたい。
- オ 我が国に古くから歌い継がれている日本歌曲を鑑賞または歌唱し、詩のリズムや抑揚が旋律に自然に生かされていることを感じ取らせたい。

4 本 時 の 実 際 (3 / 3)

(1) 本 時 の 目 標

- ア 日本歌曲に関心をもち、表情豊かな歌唱表現に積極的に取り組むことができる。
- イ 歌詞に込められた思いを感じ取り、気持ちを込めた歌い方の工夫ができる。
- ウ 各声部を聴きながら、それぞれの役割を理解しながら表現することができる。
- エ 日本歌曲について鑑賞し、詩情豊かな表現を聴き取ることができる。

(2) 評価規準

- ア 日本歌曲に関心をもち、表情豊かな歌唱表現に積極的に取り組もうとしている。
(観察法, ノート)
- イ 歌詞の内容を理解し、曲想を生かしながら、表情豊かな歌唱表現の工夫をしようとしている。
(観察法)
- ウ 自分のパートを役割を理解し、お互いのパートを聴きながら、響きを合わせ、合唱しようとしている。
(聴き取り)
- エ 中田喜直の作品を鑑賞し、そのよさを聴き取ろうとしている。(観察法, ノート)

(3) 展 開

過程	時間	学 習 内 容	学習形態	指導上の留意点 (は評価の観点)
かんじ	7分	1 「Let's search for Tomorrow」と「夏の思い出」を合唱する。	一 斉	各自が表現しようとする意図を明確にさせ声の調子を整えさせる。 発声の仕方に問題のある時は、口の開け方や声の出し方を助言する。
とらえ	13分	2 本時の目標を知る。 旋律の流れや抑揚を生かしながら、表情豊かな表現の工夫をしよう。	一 斉	本時の目標と学習の流れについて知らせ、意欲を高めさせる。 評価
あじわ	15分	3 前時の学習を振り返りながら、本時の学習における表現の工夫について各パートの発表を聴き、表現の工夫や課題を確認する。	グループ 個人	各パートで表現上の工夫、課題を話し合い発表させ、どのような曲想に仕上げていくか、方向性をしっかりと確認させる。 評価
う	5分	4 「夏の思い出」をパート練習する。 5 「夏の思い出」を二部合唱する。 ・曲中の様々な諸記号について注意しながら表情豊かに表現する。	グループ 一 斉	方向性を確認させながらパート練習させる。 評価 一人一人の歌声が豊かな表現につながることを意識させる。 歌詞の内容を味わわせながら、心を込めて表現させる。 評価
ひろげ	10分	6 中田喜直作曲の作品を鑑賞する。 7 学習のまとめをする。	一 斉	日本歌曲を鑑賞させ、詩情豊かな表現を聴き取らせる。 評価 これまで学習してきたことを生かしながら「夏の思い出」を二部合唱させる。 評価